

4-1 降水量等の変化による丹波黒大豆への影響調査

大項目	小項目	チェック	チェック項目	備考
影響予測手法 及び予測結果	(影響予測手法) 現況の再現性		現況を再現できている	収量の予測では現況を概ね再現できていたが、品質の予測については利用可能なデータが不足していたことから定性的な評価となった。
		<input type="radio"/>	現況を概ね再現できているが、一部現況の再現が困難な点があった	
			現況再現を実施していない	
	(影響予測手法) 他地域での応用可能性		気候シナリオを入れ替えれば、他地域でも実施可能	均質な収量・品質のデータがあれば、他地域でも同様の推定は可能である。
		<input type="radio"/>	気候シナリオに加え、他の入力データを入れ換えれば、他地域でも実施可能	
			本調査の対象地域のみ利用できる	
	(影響予測手法) 応用に必要な技術レベル		多くの行政担当者が自ら実施可能である	データの扱いには、コンサルタントや研究者のサポートが必要である。
		<input type="radio"/>	気候シナリオや影響予測モデルを扱うことができるコンサルタントや研究者のサポートが必要	
			研究者等の指導の下でなければ実施は難しい	
	(影響予測結果) 活用可能性		行政の活用の観点から、妥当と思われる予測結果が得られた	ヒアリングなどで得られた知見と概ね同じ傾向の結果が得られたが、継続して収量、品質、及び気象データの収集し、予測を精緻化する必要がある。
			概ね妥当な結果と考えられ、行政で活用が可能であるが、さらに検証を実施することで、より精緻な予測結果が望める	
		<input type="radio"/>	行政で活用するためには、引き続き調査やデータ収集などが必要	
適応オプション	適応策の妥当性		革新的な適応策を提示できた	影響評価の結果を踏まえた適応オプションを提示した。
		<input type="radio"/>	影響予測結果に対応した適応策を提示した	
			影響予測結果と必ずしも一致しないものも含め、分野の一般的な適応策の提示を行った	
	導入可能性	<input type="radio"/>	他地域で実施・導入が可能である	提示した適応オプションは他地域でも実施・導入が可能であると考えられる。
			本調査の対象地域でのみ実施・導入が可能である	
			本調査の対象地域で導入するには、さらなる調査、検討が必要である	
	他分野との関連性		他分野に相乗効果や副次効果が生じる	農業分野以外の導入は困難である。
		<input type="radio"/>	対象分野のみに効果がある	
			他分野にマイナスの影響を与える可能性があるため、導入の際に留意が必要である	
	適応策の多様性		適応オプションを多様な視点から5つ以上提案できた。	本調査では高温・少雨の影響が指摘されている、成熟遅延についての適応オプションを提示した。
			適応オプションを5つ以上提案できたが、調査対象の特徴などから適応策検討の視点が限られていた	
		<input type="radio"/>	調査対象の特徴などから適応策検討の視点が限られたため、提示できた適応オプションも限られた	

(※1) 現況の再現性とは、現在の状況を予測モデルが再現できている度合いのこと。通常、将来予測を実施する前に、モデルの妥当性を確認するため、現在の観測値等を利用して、予測モデルが現在の状況を再現できているか確認している。